



令和7年1月14日発行

第6号

北海道高等聾学校進路指導部

文責：押切

卒業生体験講話が実施されました

12月6日（金）に今年度2回目の卒業生体験講話が行われました。今回の講師は今野歩美さんです。



今野さんは、北海道旭川聾学校から北海道高等聾学校を経て、専攻科の情報デザイン科に進学し、令和5年4月から旭川赤十字病院の情報システム課に勤務されています。

今野さんが専攻科への進学を決めたきっかけは「絵を描くことやパソコンの技術を向上させたい」という具体的な目標があったからと話します。専攻科在籍中は、フォトショップやイラストレーター、Webデザイン検定、色彩士検定等のクリエイティブ系の資格を数多く取得しました。また、同時にワードやエクセル等などの、事務処理に必要な資格も取得しています。

専攻科に行ってよかったと思うことは、パソコン操作が上達したことや、様々な情報を整理する力がついたことを挙げています。現在、今野さんは電子カルテの管理やPCのセットアップ、Web製作等の仕事を担当しています。ここでは、パソコン操作をはじめ、情報を整理する力や文書作成能力がとても重要であり、専攻科で身につけたスキルが発揮されています。

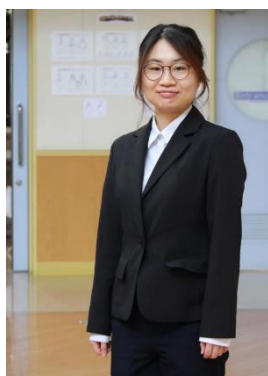
資格を取得することは、単に履歴書に書くためだけでなく、将来の仕事に役立つスキルであることが、大切であることがわかります。

講演の中で今野さんは、コミュニケーションの大切さにも触れました。今野さんが心がけていることは「自分に合ったコミュニケーション方法を見つけること」です。職場で会話をする時にパソコンに直接入力しながら会話をしたり、チャットツール（Chat work）を使ってやり取りをするなど、様々な方法でコミュニケーションを取っています。手話や筆談にとらわれず、自分に合ったコミュニケーション方法を探してみることも大切です。

また、手話に興味がある先輩とお昼を一緒に過ごしたり、行事の場では普段接点のない同僚に積極的に話しかけるなど、コミュニケーションを通じて人間関係を築いています。今後は、手話に興味のある人たちと、たくさんの繋がりをつくり、職場内に手話サークルを立ち上げてみたいと夢を語りました。



今野先輩からのメッセージ



私がみなさんに伝えたいことは、「自分の課題を見つけ、克服する力を養うこと」や「勉強できるのは学生の間だけ」ということです。社会人になると、なかなか勉強の時間を取るものが難しくなります。だからこそ、学生時代にしっかり学んで、自分の強みを見つけ、弱点を克服することが大切です。

また、仕事を始めた後でも「失敗を恐れず、挑戦すること」が大切です。失敗から学ぶことは多く、それが成功につながると考えています。

卒業生体験講話アンケート集計

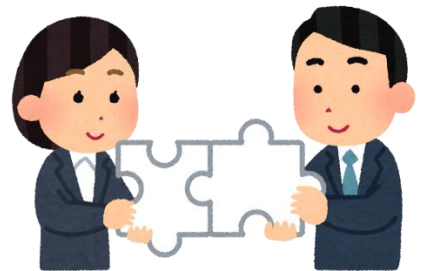
講話のあと、生徒の皆さんに感想や意見を書いてもらいました。すべてを載せることはできませんが、いくつか抜粋して紹介します。

【1】今野さんのお話を聞いてわかったこと、勉強になったこと、気づいたことは何ですか？

- ・今野先輩が、スマホアプリを使って話し合いをしたり、手話の勉強をする人と話しをしていることがわかった。
- ・コミュニケーション方法としてメモだけでなく、パソコンで文字を入力して見せる方法を初めて知った。
- ・コミュニケーションが大切だとわかった。
- ・失敗しても成功につながることをわかった。
- ・勉強できる時間は学生の時しかないことが参考になった。
- ・専攻科でたくさんの技術を身につけられることがわかった。
- ・コミュニケーション手段に関する説明があったが、すごく参考になった。とてもわかりやすい説明をしてくださりありがとうございました。
- ・健聴者とどのようにやりとりをすれば良いのか、今のうちに頑張っておくべきことは何かを知ることができた。また、専攻科ではどのようなことを勉強しているのかを知ることができた。
- ・ふつうの人とのコミュニケーションの取り方を知りたかったので、聞けて良かったです。
- ・専攻科について良く知れてよかった。職場についても知れてイメージしやすかった。
- ・耳が聞こえない環境でも、コミュニケーションの取り方を教えてくれて、参考になった。
- ・ろう者を理解し、手話に興味がある人がいることが改めてわかった。

【2】今野さんのお話を聞いて、自分の改善点、やらなくてはいけないことは何ですか？

- ・私は特にコミュニケーションが苦手なので、社会に行っても、スマホアプリも使って、筆談も聞き取りするよう頑張りたいと思います。
- ・自分もたくさんの資格を取るべきだと思った。
- ・ろうあ者の私は、できることを増えるため、苦手なことをして頑張りたい。
- ・自分の課題を見つけ、克服するよう努めること。
- ・自分にあったコミュニケーション方法をとること。
- ・日本語力を伸ばすこと。
- ・より勉強をして、学生の中でできるだけたくさんのことをやりたいと思った。
- ・コミュニケーション手段を自分なりに工夫していきたいです。
- ・聴覚障害を持っていても、自分にあったコミュニケーションをすることで、健聴者とコミュニケーションを取れることを知ったので、たくさんの方とコミュニケーションを積極的に取ろうと思いました。
- ・自分も失敗を恐れることが良くあるので、それをやめるのを心がけていきます。



【3】そのほか自由に書いてください。

- ・自分もイラストに関する専門学校に行くので、いろいろな資格を取るようにしたい。
- ・手話がわかりやすかった。
- ・ゆっくりはつきり話しをしていて、とてもわかりやすかった。
- ・専攻科に行ったあとの進路の一例を見ることができた良かった。

※そのほか、パワーポイントの字が小さくて見づらかった。字幕をつけて欲しいなどの要望がありました。

これらについては、先生たちの課題として受け止めたいと思います。